

# 2024年度 臨時総会議案書

 公益社団法人北海道社会福祉士会

と き	2025年3月22日（土）
ところ	かでの2・7 （札幌市中央区北2条西7丁目）

公益社団法人 北海道社会福祉士会  
2024年度臨時定時総会 次第

と き	2025（令和7）年3月22日（土）13時00分～
と ころ	かでる 2.7（札幌市中央区北2条西7丁目） インターネットを利用したのオンライン（使用ソフト：Zoom）
理 事	出町 勇人、澤田 憲一、今井 敦、岩佐 宏希、北村 満広、 國松 直人、久保田真弓、近藤 祐二、佐々木祐也、篠原 歩、 澁谷 昌広、島崎 顕生、庄司 圭佑、多田 委代、綱渕 美穂、 渡辺洋一郎
監 事	大内 高雄、石塚 慶如
相談役	神内秀之介
事務局	前鼻 弘靖、五十嵐 綾、本郷 美香

議事録作成者 代表理事 出町 勇人

次 第

1. 開式の辞
2. 議長選出
3. 資格審査委員選任
4. 議事録署名人選任
5. 会長挨拶
6. 資格審査報告
7. 議事
  - （1）議案第1号 定款変更について
  - （2）議案第2号 会費に関する規則（規則第2号）の一部改正について
  - （3）議案第3号 役員選出規則（規則第4号）の一部改正について
8. 議長退任
9. 閉会の辞

以上

## 1 変更趣旨

- (1) 2024年5月14日の衆議院本会議にて「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」が可決・成立し、同月22日に公布され、2025年4月1日より公益法人新制度の施行となっている。その中で、ガバナンス強化のため、理事・理事会、監事の機能強化が行われ、現行制度では義務化されていない外部理事や外部監事の導入が必要となった。

本会においては、外部理事の選任は定めておらず、会員理事16名を選任している。この度、外部理事1名分理事の人数を追加するため定款第21条の理事の定数について変更するとともに、理事及び監事の特別利害関係等についても明記する変更を行う。

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成十八年法律第四十九号）  
（公益認定の基準）

第五条の十五 理事のうち一人以上が、当該法人又はその子法人の業務執行理事又は使用人でなく、かつ、その就任の前十年間当該法人又はその子法人の業務執行理事又は使用人であったことがない者その他これに準ずるものとして内閣府令で定める者であること。ただし、毎事業年度における当該法人の収益の額、費用及び損失の額その他の政令で定める勘定の額がいずれも政令で定める基準に達しない場合は、この限りでない。

- (2) 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の交付に伴う条項ずれ及び規定の体裁を整える変更を行う。

## 2 改正内容

新旧対照表を参照。

## 3 その他

定款第21条第1項第1号及び第22条第4項から第8項までの規定の適用は、新たに理事及び監事が選任される2025年定時総会開催日とする。承認後に登記を行う。

以上

定款変更について 新旧対照表

改正後	現行
公益社団法人北海道社会福祉士会定款	公益社団法人北海道社会福祉士会定款
2012年 5月 26日総会議決 2014年 3月 22日一部改正 2015年 6月 6日一部改正 2018年 6月23日一部改正 2019年 6月22日一部改正 2020年 6月27日一部改正 2021年 6月26日一部改正 2023年 6月24日一部改正 <u>2025年 3月22日一部改正</u>	2012年 5月 26日総会議決 2014年 3月 22日一部改正 2015年 6月 6日一部改正 2018年 6月23日一部改正 2019年 6月22日一部改正 2020年 6月27日一部改正 2021年 6月26日一部改正 2023年 6月24日一部改正
第1条～第17条 (略) (決議)	第1条～第17条 (略) (決議)
第18条 (略)	第18条 (略)
2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。	2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
(1)会員の除名 (2)監事の解任 (3)長期の借入れ (4)定款の変更 (5)解散	(1)会員の除名 (2)監事の解任 (3)長期の借入れ (4)定款の変更 (5)解散
<u>(6)その他法令で定められた事項</u>	<u>その他法令で定められた事項</u>
第19条～第20条 (略)	第19条～第20条 (略)

## 第5章 役員

### (設置)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

(1)理事 17人以上21人以内

(2)監事 2人以内

2 理事のうち1人を会長、3人を副会長とする。

3 前項の会長をもって一般法人法上の代表理事とする。

### (選任)

第22条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 理事及び監事は、連続して4期を超えて同一の役職に選任することはできない。ただし、特別の事情がある場合、1期に限り引き続き同一の役職に選任することができるものとする。

3 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

4 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は三親等内の親族その他、特別の関係にある者の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

5 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に親密な関係にある理事の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

6 各理事について、各監事と特別利害関係を有するものではあってならない。

7 理事のうち1人以上が、この法人又はその子法人の業務執行理事又は使用人でなく、かつ、その就任の前10年間この法人又はその子法人の業務執行理事又は使用人であったことがない者、その他これに準ずる者とする。

8 監事のうち1人以上が、その就任の前10年間この法人又はその子法人の理事又は使用人であったことがない者、その他これに準ずる者とする。

## 第5章 役員

### (設置)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

(1)理事 16人以上20人以内

(2)監事 2人以内

2 理事のうち1人を会長、3人を副会長とする。

3 前項の会長をもって一般法人法上の代表理事とする。

### (選任)

第22条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 理事及び監事は、連続して4期を超えて同一の役職に選任することはできない。ただし、特別の事情がある場合、1期に限り引き続き同一の役職に選任することができるものとする。

3 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

4 この法人の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

5 この法人の監事には、この法人の理事（親族その他特殊の関係がある者を含む。）及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があってはならない。

第23条～第44条（略）

（公益認定の取消し等に伴う贈与）

第45条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第5条第20号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）

第46条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、国若しくは地方公共団体又は認定法第5条第20号に掲げる法人であって租税特別措置法第40条第1項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

第47条～第49条（略）

附則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という。）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2 この法人の最初の会長は柏 浩文とする。

3 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第39条の規

第23条～第44条（略）

（公益認定の取消し等に伴う贈与）

第45条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）

第46条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、国若しくは地方公共団体又は認定法第5条第17号に掲げる法人であって租税特別措置法第40条第1項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

第47条～第49条（略）

附則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という。）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2 この法人の最初の会長は柏 浩文とする。

3 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第39条の規

定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

(施行年月日 2013年4月1日)

附 則

1 この改正定款は、2014年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正定款は、2015年6月6日から施行する。

附 則

1 この改正定款は、2018年6月23日から施行する。

附 則

1 この改正定款は、2019年6月22日から施行する。

附 則

1 この改正定款は、2020年6月27日から施行する。

附 則

この改正定款は、2021年6月26日から施行する。

附 則

この改正定款は、2023年6月24日から施行する。

附 則

この定款は、2025年3月22日から施行する。ただし、第21条第1項第1号及び第22条第4項から第8項までの規定については、2025年6月28日から適用する。

定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

(施行年月日 2013年4月1日)

附 則

1 この改正定款は、2014年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正定款は、2015年6月6日から施行する。

附 則

1 この改正定款は、2018年6月23日から施行する。

附 則

1 この改正定款は、2019年6月22日から施行する。

附 則

1 この改正定款は、2020年6月27日から施行する。

附 則

この改正定款は、2021年6月26日から施行する。

附 則

この改正定款は、2023年6月24日から施行する。

# 公益社団法人北海道社会福祉士会定款

2012 年 5 月 26 日総会議決  
2014 年 3 月 22 日一部改正  
2015 年 6 月 6 日一部改正  
2018 年 6 月 23 日一部改正  
2019 年 6 月 22 日一部改正  
2020 年 6 月 27 日一部改正  
2021 年 6 月 26 日一部改正  
2023 年 6 月 24 日一部改正  
2025 年 3 月 22 日一部改正

## 第 1 章 総則

(名称)

第 1 条 この法人は、公益社団法人北海道社会福祉士会と称する。

(事務所)

第 2 条 この法人は、主たる事務所を北海道札幌市に置く。

## 第 2 章 目的及び事業

(目的)

第 3 条 この法人は、社会福祉の援助を必要とする北海道民の生活及び権利の擁護、北海道内における社会福祉に関する知識及び技術の普及及び啓発並びに社会福祉事業に携わる専門職員の技能の研鑽等に関する事業を行い、地域福祉サービスの推進と発展を図り、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

(事業)

第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 社会福祉の援助を必要とする住民の生活と権利の擁護に関する事業
- (2) 社会福祉に関する知識及び技術の普及及び啓発に関する事業
- (3) 社会福祉士の職務に関する知識及び技術の向上に関する事業
- (4) 社会福祉士等の資格取得の支援に関する事業
- (5) 相談援助従事者の養成及びその技術の研鑽に関する事業



- (6) 社会福祉及び社会福祉士に関する調査研究に関する事業
- (7) 社会福祉団体その他の関係団体との連携に関する事業
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会員

(法人の構成員)

第5条 この法人に次の会員を置く。

(1) 正会員 社会福祉士及び介護福祉士法（以下「社会福祉士法」という。）第28条の規定により社会福祉士の登録を受け、かつ、北海道内に住所又は勤務先を有する者であって、この法人の目的に賛同して入会したもの

(2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人又は団体

2 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）上の社員とする。

(資格の取得)

第6条 この法人の会員になろうとする個人又は団体は、理事会において別に定める入会申込書をこの法人に提出し、理事会の承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第7条 この法人が経常的に必要とする費用に充てるため、会員は、総会において別に定めるところにより、会費を支払う義務を負う。

(任意退会)

第8条 会員は、理事会において別に定める退会届をこの法人に提出することにより、任意に退会することができる。

2 退会しようとする者は、所定の手続きを行うものとする。

3 前2項にかかわらず、苦情を申立てられた者は、倫理委員会、理事会、総会等でその処分の審査及び審議が終わるまでは任意に退会することができない。

(除名)

第9条 会員が次のいずれかに該当するときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。この場合においては、当該会員に対し、当該総会の日から1週間前までにその旨を通知し、かつ、総会において弁明する機会を与えなければならない。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(資格の喪失)

第10条 前2条の場合のほか、会員（第3号及び第4号に掲げる場合にあっては、正会員）は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 心身の故障により社会福祉士の業務を適正に行うことができない者として厚生労働省令で定めるもの
- (2) 死亡し、又は解散したとき。
- (3) 社会福祉士法第32条第1項又は第2項の規定により、登録を取り消されたとき。
- (4) 社会福祉士法第33条の規定により、登録を消除されたとき。
- (5) 第7条に定める会費を2年以上納入しなかったとき。
- (6) すべての会員が同意したとき。

2 会員が前2条及び前項の規定によりその資格を喪失したときは、この法人に対する会員としての権利を失い義務を免れる。ただし、未履行の義務は、これを免れることができない。

(抛出金品の不返還)

第11条 前3条の場合において、既納の会費その他の抛出金品は、返還しない。

## 第4章 総会

(構成)

第12条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

2 前項の総会をもって一般法人法上の社員総会とする。

(権限)

第13条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
- (4) 定款の変更
- (5) 解散及び残余財産の処分
- (6) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた

## 事項

### (開催)

第14条 総会は、定時総会として毎事業年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に臨時総会として開催する。

### (招集)

第15条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

3 総会を招集するには、会長は、総会の日時及び場所その他法令で定められた事項を記載した書面をもって、総会の日の1週間前（第19条第1項に規定する書面による議決権の行使をすることができる場合にあっては、2週間前）までに、正会員に対してその通知を発しなければならない。

4 総会参考資料等の内容である情報については、電子提供措置を行うものとする。

### (議長)

第16条 総会の議長は、当該総会において、出席した正会員の中から選出する。

### (議決権)

第17条 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

### (決議)

第18条 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(1) 会員の除名

(2) 監事の解任

(3) 長期の借入れ

(4) 定款の変更

(5) 解散

(6) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合

計数が第21条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(代理人又は書面による議決権の行使)

第19条 正会員は、法令で定めるところにより、代理人又は書面によって、総会における議決権の行使をすることができる。

2 前項の代理人は、正会員でなければならない。

3 第1項の代理人又は書面によって議決権を行使した正会員の数及びその議決権の数は、それぞれ出席した正会員の数及びその議決権の数に算入する。

(議事録)

第20条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 前項の議事録には、当該総会の議長のほか、当該総会において選任された議事録署名人2人以上が、記名押印する。

## 第5章 役員

(設置)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 17人以上21人以内

(2) 監事 2人以内

2 理事のうち1人を会長、3人を副会長とする。

3 前項の会長をもって一般法人法上の代表理事とする。

(選任)

第22条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 理事及び監事は、連続して4期を超えて同一の役職に選任することはできない。ただし、特別の事情がある場合、1期に限り引き続き同一の役職に選任することができるものとする。

3 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

4 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は三親等内の親族その他、特別の関係にある者の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

5 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に親密な関係にある理事の合計数は、理事総数の3分の1を超えては

ならない。監事についても同様とする。

6 各理事について、各監事と特別利害関係を有するものではあってならない。

7 理事のうち1人以上が、この法人又はその子法人の業務執行理事又は使用人でなく、かつ、その就任の前10年間この法人又はその子法人の業務執行理事又は使用人であったことがない者、その他これに準ずる者とする。

8 監事のうち1人以上が、その就任の前10年間この法人又はその子法人の理事又は使用人であったことがない者、その他これに準ずる者とする。

(理事の職務及び権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3 副会長は、理事会において別に定めるところにより、会長を補佐する。

4 会長は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

3 監事は、理事会に出席し、必要があると認めるときは、意見を述べなければならない。

4 監事は、理事が不正の行為をし、若しくは当該行為をするおそれがあると認めるとき、又は法令若しくはこの定款に違反する事実若しくは著しく不当な事実があると認めるときは、遅滞なく、その旨を理事会に報告しなければならない。

5 監事は、前項に規定する場合において、必要があると認めるときは、会長に対し、理事会の招集を請求することができる。

(任期)

第25条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

2 任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された理事又は監事の任期は、退任した理事又は監事の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(解任)

第26条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(報酬等)

第27条 理事及び監事は、無報酬とする。

(責任の免除)

第28条 この法人は、一般社団及び一般財団法人法第111条第1項に定める役員の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

## 第6章 理事会

(構成)

第29条 この法人に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第30条 理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 会長及び副会長の選定及び解職

(招集)

第31条 理事会は、会長が招集する。

2 会長以外の理事は、会長に対し、理事会の目的である事項を示して、理事会の招集を請求することができる。

3 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

4 理事会を招集する者は、理事会の日時及び場所を記載した書面をもって、理事会の日の1週間前までに、各理事及び各監事に対してその通知を発しなければならない。

(議長)

第 3 2 条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(決議)

第 3 3 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般法人法第 9 6 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 3 4 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第 7 章 顧問及び相談役

(顧問及び相談役)

第 3 5 条 この法人に、次の任意機関を置くことができる。

(1) 顧 問 3 人以内

(2) 相談役 2 人以内

2 顧問は学識経験者（正会員を除く。）の中から、相談役はこの法人の理事又は監事となつたことがある者の中から、総会の決議によって任期を定めて選任する。

3 顧問は、会長の求めに応じて、専門的な事項に関して助言を行う。

4 相談役は、会長の求めに応じて、この法人の運営に関して助言を行う。

5 顧問及び相談役は無報酬とする。

## 第 8 章 支部

(設置等)

第 3 6 条 1 又は 2 以上の区域（北海道が設置する総合振興局又は振興局の区域をいう。以下本条において同じ。）ごとに、この法人の支部を置く。

2 支部が置かれた区域に住所を有する正会員は、当該支部に属する。

3 支部ごとに、当該支部に属する正会員をもって構成する支部全体会を置く。

- 4 総会において別に定めるところにより、支部ごとに支部長その他の支部役員を置く。
- 5 支部役員の選任及び解任は、当該支部の支部全体会の決議によって行う。
- 6 支部役員は、理事会において別に定めるところにより、当該支部が置かれた区域における業務の執行について、会長を補佐する。
- 7 前6項に規定する事項のほか、支部の組織及び運営については、総会において別に定めるところによる。

## 第9章 資産及び会計

### (財産の管理)

第37条 この法人の財産の管理については、理事会において別に定めるところによる。

### (長期の借入れ)

第38条 この法人が資金の借入れ（当該事業年度において償還するものを除く。）をするには、総会の決議によらなければならない。

### (事業年度)

第39条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

### (事業計画及び収支予算)

第40条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

### (事業報告及び決算)

第41条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）



(5)貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書  
(6)財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款及び社員名簿（正会員名簿）を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1)監査報告

(2)理事及び監事の名簿

(3)理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4)運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第42条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

## 第10章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第43条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第44条 この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第45条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第5条第20号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第46条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、国若しくは地方公共団体又は認定法第5条第20号に掲げる法人であって租税特別措置法第40条第1項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

## 第11章 公告の方法

(公告の方法)

第47条 この法人の公告は、電子公告により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。

## 第12章 事務局

(設置等)

第48条 この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局には、事務局長及び所要の職員を置く。

3 前項の事務局長及び職員は、理事会の承認を経て会長が任免する。

4 前3項に定めるもののほか、事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

## 第13章 雑則

(雑則)

第49条 法令又はこの定款で定めるもののほか、この法人の運営については、理事会において別に定めるところによる。

### 附則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という。）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2 この法人の最初の会長は柏 浩文とする。

3 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益

法人の設立の登記を行ったときは、第 39 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

(施行年月日 2013 年 4 月 1 日)

附 則

- 1 この改正定款は、2014 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この改正定款は、2015 年 6 月 6 日から施行する。

附 則

- 1 この改正定款は、2018 年 6 月 23 日から施行する。

附 則

- 1 この改正定款は、2019 年 6 月 22 日から施行する。

附 則

- 1 この改正定款は、2020 年 6 月 27 日から施行する。

附 則

この改正定款は、2021 年 6 月 26 日から施行する。

附 則

この改正定款は、2023 年 6 月 24 日から施行する。

附 則

この定款は、2025 年 3 月 22 日から施行する。ただし、第 21 条第 1 項第 1 号及び第 22 条第 4 項から第 8 項までの規定については、2025 年 6 月 28 日から適用する。

## 議案第 2 号

公益社団法人北海道社会福祉士会の会費に関する規則（規則第 2 号）の一部改正について

### 1 改正趣旨

2021 年 3 月 20 日に日本社会福祉士会の臨時総会が開催され、「財政基盤の確保・事務局体制の強化プロジェクトチーム」の提案により、30 歳以下の若年会員を対象に年会費を入会年度に限り無料とすること（3 年間試行）が承認され、本会においても規則の一部改正を行った。

今回、2024 年度都道府県社会福祉士会会長会議において、「30 歳以下の入会状況」および正会員を対象とした「30 歳以下の新規入会者に対する減免措置に関するアンケート集計結果」を踏まえて検証を行った結果、財政的な問題がない限り、入会促進キャンペーン（30 歳以下減免）を 2025 年度から更に 3 年間（2027 年度）まで継続し、2027 年度中に再度評価を行い、継続の可否を判断する方針となった。

このことに伴い、本会会費に関する規則（規則第 2 号）の制定附則を一部改正する。

### 2 改正内容

本会会費に関する規則（規則第 2 号）の制定附則を一部改正する。

- 2 本規則第 3 条第 1 項で定める年会費は、2022 年 4 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日までに入会した正会員のうち、入会した年度内の年齢が満 30 歳を超えない者について、入会初年度の会費を免除する。ただし、2022 年 4 月 1 日以降に入会した正会員につき、一度のみの適用とする。

### 3 その他

規則の改正は、総会の承認を得なければならない。

以上

公益社団法人北海道社会福祉士会委員会の会費に関する規則の一部改正 新旧対照表

改正後	現行
<p>公益社団法人北海道社会福祉士会の会費に関する規則 規則第2号 2013年4月1日制定 2014年3月22日一部改正 2022年3月12日一部改正 <u>2025年3月22日一部改正</u></p> <p>第1条～第6条（省略） 附 則 1 本規則は、本会設立の日から施行する。 2 本規則第3条第1項で定める年会費は、2022年4月1日から<u>2028年3月31日</u>までに入会した正会員のうち、入会した年度内の年齢が満30歳を超えない者について、入会初年度の会費を免除する。ただし、2022年4月1日以降に入会した正会員につき、一度のみの適用とする。</p> <p>附 則 1 この改正規則は、2014年3月22日から施行する。ただし、改正後の第3条第1項及び同条第4項の規定については、本会設立の日（2013年4月1日）から適用する。</p> <p>附 則 この改正規則は、2022年3月12日から施行し、2022年4月1日から適用する。</p>	<p>公益社団法人北海道社会福祉士会の会費に関する規則 規則第2号 2013年4月1日制定 2014年3月22日一部改正 2022年3月12日一部改正</p> <p>第1条～第6条（省略） 附 則 1 本規則は、本会設立の日から施行する。 2 本規則第3条第1項で定める年会費は、2022年4月1日から<u>2025年3月31日</u>までに入会した正会員のうち、入会した年度内の年齢が満30歳を超えない者について、入会初年度の会費を免除する。ただし、2022年4月1日以降に入会した正会員につき、一度のみの適用とする。</p> <p>附 則 1 この改正規則は、2014年3月22日から施行する。ただし、改正後の第3条第1項及び同条第4項の規定については、本会設立の日（2013年4月1日）から適用する。</p> <p>附 則 この改正規則は、2022年3月12日から施行し、2022年4月1日から適用する。</p>

附 則

この改正規則は、2025年3月22日から施行し、2025年4月1日から適用する。

# 公益社団法人北海道社会福祉士会の会費に関する規則

## 規則第2号

2013年4月1日制定

2014年3月22日一部改正

2022年3月12日一部改正

2025年3月22日一部改正

### (目的)

第1条 この規則は、公益社団法人北海道社会福祉士会（以下「本会」という。）定款第7条の規定に基づき、本会の会費の取扱いについて基本的事項を定めることを目的とする。

### (入会金)

第2条 本会の正会員及び賛助会員の入会金は、これを必要としないものとする。

### (会費)

第3条 本会の正会員の会費は、年15,000円とする。

2 途中入会者であっても、前項の会費とする。

3 一旦納入された年会費は、理由のいかんを問わず、これを返還しないものとする。

4 第1項の規定の会費の徴収は、日本社会福祉士会に委託できるものとする。

### (賛助会費)

第4条 本会の定款第5条第1項第2号に規定する賛助会員の会費は、法人の場合は年間1口10,000円、個人の場合は年間1口5,000円、学生である個人の場合は年間1口1,000円とし、各々1口以上の賛助会費を必要とするものとする。

2 学生である個人とは次のとおりとする。

(1) 日本社会福祉士養成校協会加盟校の学生

(2) 社会福祉学を専攻する大学院生

(3) 社会福祉士取得を目指す学部学生、及び専門学校生

- 3 一旦納入された賛助会費は、理由のいかんを問わず、これを返還しないものとする。

(委任)

第5条 この規則に定めるもののほか、本会の会費等に関して必要な細目事項は、理事会において別に定める。

(改正)

第6条 この規則を改正するときは、総会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 本規則は、本会設立の日から施行する。
- 2 本規則第3条第1項で定める年会費は、2022年4月1日から2028年3月31日までに入会した正会員のうち、入会した年度内の年齢が満30歳を超えない者について、入会初年度の会費を免除する。ただし、2022年4月1日以降に入会した正会員につき、一度のみの適用とする。
- 3 本規則第3条第1項で定める年会費は、2025年4月1日から2028年3月31日までに入会した正会員のうち、入会した年度内の年齢が満30歳を超えない者について、入会初年度の会費を免除する。ただし、2025年4月1日以降に入会した正会員につき、一度のみの適用とする。

附 則

- 1 この改正規則は、2014年3月22日から施行する。ただし、改正後の第3条第1項及び同条第4項の規定については、本会設立の日（2013年4月1日）から適用する。

附 則

この改正規則は、2022年3月12日から施行し、2022年4月1日か



ら適用する。

#### 附 則

この改正規則は、2025年3月22日から施行し、2025年4月1日から適用する。

## 議案第 3 号

公益社団法人北海道社会福祉士会役員選出規則（規則第 4 号）の一部改正について

### 1 改正趣旨

（１） 2024 年 5 月 14 日の衆議院本会議にて「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」が可決・成立し、同月 22 日に公布され、2025 年 4 月 1 日より公益法人新制度が施行される。その中で、ガバナンス強化のため、理事・理事会、監事の機能強化が行われ、現行制度では義務化されていない外部理事や外部監事の導入が必要となる。

本会においては、外部理事の選任方法を定めるため及び、定款変更による規定の整合性を図るため、本規則の一部改正を行う。

（２） 併せて文言の整理を行う。

### 2 改正内容

新旧対照表を参照。

以上

公益社団法人北海道社会福祉士会役員選出規則の一部改正 新旧対照表

改正後	現行
<p>公益社団法人北海道社会福祉士会役員選出規則 規則第4号 2013年4月1日制定 2016年6月11日一部改正 <u>2025年3月22日一部改正</u></p> <p>(目的) 第1条 この規則は、公益社団法人北海道社会福祉士会（以下「本会」という。）定款第22条第1項に規定する役員（以下「役員」という。）の選任に関して、基本的事項を定めることを目的とする。</p> <p>(候補者選出方法) 第2条 本会の役員候補者の選出方法は、次のとおりとする。 (1) 会員理事 立候補制とし、定数は、定款の定める<u>定数から、外部理事を除いた数とする。</u> (2) <u>外部理事 理事会の議決により候補者を1名選出する。</u> (3) 会員監事 理事会の議決により候補者を1名選出する。 (4) 外部監事 理事会の議決により候補者を1名選出する。 <u>2 外部理事の選出にあたっては、医療関係者、保健・福祉関係者等から推薦を受けた者とする。</u> <u>3 監事候補者の選出にあたっては、十分な知識や経験を有する者とする。</u></p> <p>第3条～第8条（略）</p> <p>(理事会による候補者の推薦) 第9条 前条による理事候補者数が定款で定める定数に満たない場合は、理事会が候補者としてふさわしいと判断される</p>	<p>公益社団法人北海道社会福祉士会役員選出規則 規則第4号 2013年4月1日制定 2016年6月11日一部改正</p> <p>(目的) 第1条 この規則は、公益社団法人北海道社会福祉士会（以下「本会」という。）定款第22条第1項に規定する役員（以下「役員」という。）の選任に関して、基本的事項を定めることを目的とする。</p> <p>(候補者選出方法) 第2条 本会の役員候補者の選出方法は、次のとおりとする。 (1) 会員理事 立候補制とし、定数は、定款の定める<u>ところによる。</u> (2) 会員監事 理事会の議決により候補者を1名選出する。 (3) 外部監事 理事会の議決により候補者を1名選出する。</p> <p><u>2 監事候補者の選出にあたっては、十分な知識や経験を有する者とする。</u></p> <p>第3条～第8条（略）</p> <p>(理事会による候補者の推薦) 第9条 前条による理事候補者数が定款で定める定数に満たない場合は、理事会が候補者としてふさわしいと判断される</p>

<p><u>正会員</u>を推薦することができる。なお、判断するにあたっては、地域性を考慮の上、当該<u>正会員</u>の了解を得るものとする。</p> <p>2 理事会は、前項により理事候補者の氏名等を委員会に提出し、委員会により資格審査に適合することの確認を受けなければならない。</p> <p>第10条～第11条（略）</p> <p>（投票を行わない会員理事の選出）</p> <p>第12条 会員理事の数が、<u>第2条第1項第1号</u>に定める数に満たない場合は、正会員による投票を行わず、理事候補者として選出する。</p> <p>（郵送投票）</p> <p>第13条 <u>第2条第1項第1号</u>に定める会員理事の数に対し理事候補者数を超える場合は郵送投票を行うものとする。</p> <p>2 理事候補者の氏名を記載した投票用紙は、会員理事選挙が実施される年の2月末日までに正会員に郵送により配布することとする。</p> <p>第12条～第20条（略）</p> <p>（役員選任方法）</p> <p>第21条 役員の総会における選任方法は、次のとおりとする。</p> <p>（1）会員理事 理事候補者ごとに信任投票を行い、過半数をもって決する。ただし、選挙により理事候補者が選出された場合は、法令等に反しない限り、合理的な方法により決議をすることを妨げない。</p> <p>（2）<u>外部理事 信任投票を行い、過半数をもって決する。</u></p> <p>（3）<u>会員監事</u> 信任投票を行い、過半数をもって決する。</p> <p>（4）<u>外部監事</u> 信任投票を行い、過半数をもって決する。</p>	<p><u>会員</u>を推薦することができる。なお、判断するにあたっては、地域性を考慮の上、当該<u>会員</u>の了解を得るものとする。</p> <p>2 理事会は、前項により理事候補者の氏名等を委員会に提出し、委員会により資格審査に適合することの確認を受けなければならない。</p> <p>第10条～第11条（略）</p> <p>（投票を行わない会員理事の選出）</p> <p>第12条 会員理事の定数が<u>定款</u>に定める数に満たない場合は、正会員による投票を行わず、理事候補者として選出する。</p> <p>（郵送投票）</p> <p>第13条 <u>定款</u>に定める会員理事の定数に対し理事候補者数を超える場合は郵送投票を行うものとする。</p> <p>2 理事候補者の氏名を記載した投票用紙は、会員理事選挙が実施される年の2月末日までに正会員に郵送により配布することとする。</p> <p>第12条～第20条（略）</p> <p>（役員選任方法）</p> <p>第21条 役員の総会における選任方法は、次のとおりとする。</p> <p>（1）会員理事 理事候補者ごとに信任投票を行い、過半数をもって決する。ただし、選挙により理事候補者が選出された場合は、法令等に反しない限り、合理的な方法により決議をすることを妨げない。</p> <p>（2）<u>会員監事</u> 信任投票を行い、過半数をもって決する。</p> <p>（3）<u>外部監事</u> 信任投票を行い、過半数をもって決する。</p>
---	--

<p>第 2 2 条～第 2 3 条（略）</p> <p>附 則</p> <p>1 この規則は、本会設立の日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、2016年7月1日から施行する。</p> <p><u>附 則</u></p> <p><u>この規則は、2025年3月22日から施行する。</u></p>	<p>第 2 2 条～第 2 3 条（略）</p> <p>附 則</p> <p>1 この規則は、本会設立の日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、2016年7月1日から施行する。</p>
--	--

# 公益社団法人北海道社会福祉士会役員選出規則

規則第4号

2013年4月1日制定

2016年6月11日一部改正

2025年3月22日一部改正

## （目的）

第1条 この規則は、公益社団法人北海道社会福祉士会（以下「本会」という。）定款第22条第1項に規定する役員（以下「役員」という。）の選任に関して、基本的事項を定めることを目的とする。

## （候補者選出方法）

第2条 本会の役員候補者の選出方法は、次のとおりとする。

- （1）会員理事 立候補制とし、定数は、定款の定める定数から、外部理事を除いた数とする。
  - （2）外部理事 理事会の決議により候補者を1名選出する。
  - （3）会員監事 理事会の議決により候補者を1名選出する。
  - （4）外部監事 理事会の議決により候補者を1名選出する。
- 2 外部理事の選出にあたっては、医療関係者、保健・福祉関係者等から推薦を受けた者とする。
- 3 監事候補者の選出にあたっては、十分な知識や経験を有する者とする。

## （選挙管理委員会の告示）

- 第3条 会長は、理事会の承認を得て、会員理事選挙が実施される年の前年の9月1日から4週間、正会員に対し選挙管理委員会（以下「委員会」という。）委員（以下「委員」という。）3名の公募を行うものとする。
- 2 前項の規定による公募に対して定数を超える応募があった場合は、理事会は、無作為な抽選によって委員を決するものとする。
- 3 応募者数が定数に満たない場合は、理事会が候補者としてふさわしいと判断される委員を推薦することができる。なお、判断するにあた

っては、地域性を考慮の上、当該会員の了解を得るものとする。

- 5 その他委員の公募に関して必要な事項は、理事会において別に定める。

(委員会)

第4条 会員理事選出に係る公正な事務を行うため、委員会をおく。

- 2 本会の会員理事選挙の執行管理は、委員会が行う。

- 3 本会の会員理事選挙に係る庶務は、事務局が行う。

- 4 委員長は、委員の中より互選する。

- 5 委員長は、委員会を代表し、選挙の管理並びに選挙に関する業務を統轄する。なお、必要に応じて理事会に出席することができる。

- 6 会長は、前条の公募を経て委員を委嘱する。

- 7 委員の任期は、委嘱の日から役員が選出される日までとする。

- 8 委員は、選挙に関して知り得た事項を任期中もしくは退任後も他に漏らしてはならない。

(職務)

第5条 委員会は、次に掲げる選挙業務とその管理を行う。

(1) 選挙の告示

(2) 選挙人名簿の作成

(3) 立候補の受付と告示

(4) 選挙公報の作成および交付

(5) 投票用紙の作成および交付

(6) 投票および開票の管理

(7) 選挙の管理および告示

(8) その他、選挙に関する必要事項

(選挙の告示)

第6条 委員会は、会員理事が選任される年の前年の12月1日から4週間、本会のホームページにおいて選挙の実施を告示し、理事候補者を公募する。

(理事候補者の資格要件)

第7条 理事候補者は、次の各号の全てに該当することを要する。

- (1) 会員理事選任のための告示の日において本会の正会員であること。
- (2) 本会の会費について未納または滞納の状態にないこと。
- (3) 前2号の要件を満たす正会員3人の推薦者（委員及び理事候補者を除く）を有すること。

（候補者の届出）

第8条 選挙に立候補する正会員は、所定の届出書を選挙実施の告示が行われた時点から4週間以内に委員会に提出し、委員会により前条に定める資格要件（以下「資格審査」という。）に適合することが確認されたことを経て、理事候補者となる。

- 2 委員会は、資格審査にあたって、必要最低限の事項を閲覧することができる。

（理事会による候補者の推薦）

第9条 前条による理事候補者数が定款で定める定数に満たない場合は、理事会が候補者としてふさわしいと判断される正会員を推薦することができる。なお、判断するにあたっては、地域性を考慮の上、当該正会員の了解を得るものとする。

- 2 理事会は、前項により理事候補者の氏名等を委員会に提出し、委員会により資格審査に適合することの確認を受けなければならない。

（被選挙資格の取消）

第10条 第8条による資格審査に合格した理事候補者又は前条により理事会により推薦された理事候補者が、告示の前に被選挙資格の無いことが判明した場合は、当該理事候補者資格は取消され、選挙に立候補することはできない。

（候補者の告示）

第11条 理事候補者は、会員理事が選任される年の1月末日までに本会のホームページに掲載する等により公表する。

（投票を行わない会員理事の選出）

第12条 会員理事の定数が第2条第1項第1号に定める数に満たない場合は、正会員による投票を行わず、理事候補者として選出する。

（郵送投票）



第 13 条 第 2 条第 1 項第 1 号に定める会員理事の数に対し理事候補者数を超える場合は郵送投票を行うものとする。

2 理事候補者の氏名を記載した投票用紙は、会員理事選挙が実施される年の 2 月末日までに正会員に郵送により配布することとする。

(投票の方法)

第 14 条 正会員は、前条により配布された投票用紙を用いて、会員理事が選任される年の 3 月末日までに委員会宛に到着するよう、郵送により投票する。なお、締切日当日の消印は、有効とする。

(選挙による理事候補者の決定)

第 15 条 委員会は、締切日までに到着した投票用紙を集計し、有効得票数に関わらず各地区支部から 1 名ずつ選出する。ただし、当該地区支部から立候補者がいない場合は、この限りではない。

2 委員会は、同一の地区支部から複数名の立候補があった場合は、得票数の最も高い者を会員理事候補者として決定する。

3 委員会は、前 2 項による決定の後、得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を理事候補者として決定する。得票数が同じ場合は、委員会によるくじ引きによって決定する。

(選挙の終了)

第 16 条 理事候補者の選出をもって、会員理事選挙の終了とする。

(補欠の理事候補者)

第 17 条 第 15 条で選出された理事候補者以外の次点者を補欠の会員理事候補者とする。次点者の序列は有効得票数の多い順とする。得票数が同じ場合は、委員会によるくじ引きによって決定する。

(理事候補者の公表)

第 18 条 委員会は、全理事候補者の氏名を当該候補者の決定後最初に行われる理事会に報告するとともに、本会のホームページに掲載する等により公表する。

(繰り上げ当選)

第 19 条 当選者が当選の日から任期開始後 60 日までの間に死亡、退会、若しくは正当の事由で辞任または辞退したときは、次点者を繰り上げ

当選者とする。

2 任期開始後 60 日を超えて欠員が生じたときは、理事会において補欠選挙の有無を決める。

(役員候補者名簿の告示)

第 20 条 役員候補者の名簿は、最初に行われる理事会に報告するとともに、本会のホームページに掲載する等により公表する。

(役員選任方法)

第 21 条 役員の総会における選任方法は、次のとおりとする。

(1) 会員理事 理事候補者ごとに信任投票を行い、過半数をもって決する。ただし、選挙により理事候補者が選出された場合は、法令等に反しない限り、合理的な方法により決議をすることを妨げない。

(2) 外部理事 信任投票を行い、過半数をもって決する。

(3) 会員監事 信任投票を行い、過半数をもって決する。

(4) 外部監事 信任投票を行い、過半数をもって決する。

(委任)

第 22 条 この規則に定めるものの他必要な事項は、理事会において別に定める。

(改廃)

第 23 条 この規則を改正するときは、総会の承認を得なければならない。

附 則

1 この規則は、本会設立の日から施行する。

附 則

この規則は、2016 年 7 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、2025 年 3 月 22 日から施行する。

公益社団法人北海道社会福祉士会 2024 年度臨時総会 議案書

発行日：2025年2月15日

発行者：北海道社会福祉士会 会長 出町 勇人

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2.7 4階

TEL：011-213-1313 FAX：011-213-1314

E-mail：info@hokkaido-csw.or.jp